

## 映像メディアと児童の受容態度の分析 —成人との比較において—

研究第8部 星 美智子・高橋種昭  
湯川礼子  
嘱託研究員 大内茂男 (上越教育大学)  
岡田陽 (玉川大学)  
仲佐秀雄 (日本民間放送連盟)  
山本保 (厚生省児童家庭局育成課)

### はじめに

映像メディアは、成人と児童の両者が同一の映像を受容する機会も多く、成人と児童の隔壁を希薄にする。言いかえれば、映像メディアは家族が同一のテレビ番組を視聴するなど、大衆文化の機能である成人の幼児化、幼児の成人化の側面をもっている。この点、テレビは家族に共通体験を与え、相互のコミュニケーションの場を提供する。しかし、テレビが日常生活に定着している現代、家族間の対話の欠如や世代間の断絶が云々されている。以上の諸課題の解明を求めつつ、研究のテーマを選択した。

### I 目的

本研究は、児童の健全育成と世代間交流の面から、成人との比較において児童の映像メディアの受け内容や受け反応を分析することを目的とする。今年度は小学5年生、中学2年生および30～40歳代の母親の各年齢層の比較をする。

### II 方法

#### 1. 手続き

##### 1) 提示刺激のビデオの選択

NHKでは1984年から毎年8月に「戦争を知っていますか・子どもたちへのメッセージ」として、戦争を体験した女性たちが語り部となり、スタジオに招いた子どもたちにみずからの体験を語りかける6回シリーズを放映している。その中から1986年8月5日放映の「お母さん、

さみしいよ」(集団疎開児童たちの日々)、おなじく8月6日放映の「友も夢も奪われて」、1987年8月6日放映「お母さん水を……」(広島爆心地の子どもたち)の3本を候補作品として選択する。この他1987年アヌシー国際アニメ映画祭最優秀作品賞受賞「風が吹くとき」の朝日ビデオライブラリーを候補作品に加え、最終的に以上の4本のうち、内容や表現、所要時間などを検討して「お母さん水を……」に決定した。

本ビデオは44分であるが、原爆資料館の案内や説明の箇所などをカットし、36分に編集して提示刺激を作製した。

#### (内容)

「戦争を知っていますか」— おかあさん水 —  
現在79歳の被爆者坂本文子さんは原爆により当時広島市立高女2年生の娘を原爆投下の深夜に、旧制広島高校1年の息子を8月30日に亡くした。この体験をスタジオの中学生に語りかけているビデオである。

#### 2) 実験場面の設定

- (1) まず、ひな段3列に図1のように椅子を配置する。観察記録用のビデオカメラで被験者全員の顔が撮影できるようにする。椅子はメモ台付き椅子を使用する。
- (2) 5人合成抵抗GSR 2台、1台は後列5名、他の1台は中列と前列の5名に接続させる。個々には右手指先に電極板を指腹にあてマジックバンドで巻きつけて固定する。手はメモ台にのせておいてビデオ視聴する(写真1)。
- (3) 刺激ビデオを2台のテレビ受像機に流すようにし、1台は被験者の前方において視聴させ、他の1台は後方において被験者の表情と身体反応を一緒にビデオカメラで撮影する。すなわち、テレビの画像ごと被験者を観察できるようにした。
- (4) 観察記録用のビデオは、被験者の前方のカーテン仕

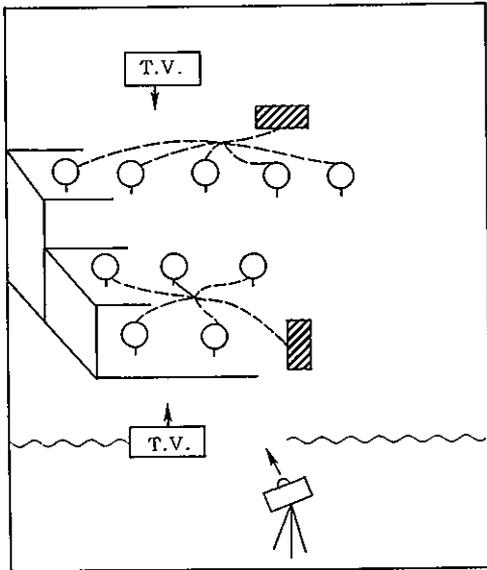


図1 実験の場面設定

切り近くにおき、すべてオートマチックに始動するように設置しておく(被験者全員ビデオカメラでの撮影に気づかなかった)。

3) GSR測定と質問紙記入

被験者10名づつビデオ視聴させる。実験者が被験者に電極板のつけ方を説明し、個々に点検する。GSRについて簡単に説明し、手を動かさないよう注意する(約10分)。ビデオ終了(36分)後、別室で質問紙(付1)に記入する(約15分)。

2. 対象

玉川学園小学部5年、中学部2年、各男女10名づつ計20名と母親20名(30~40代)を予定したが、当日、事故欠、病欠などのため対象は次のようになる。

小学生 5年	(男) 11	(女) 8	計19名
中学生 2年	(男) 9	(女) 8	計17名
母親 (35~43歳)			20名

3. 場所

玉川大学芸術学科表現教育演習室

4. 日時

GSRの5名合成抵抗機器の新規特注、'88・1月完成。'88・1~3月提示刺激ビデオの選択。4月、刺激ビデオを実験用に編集。5月、被験者依頼、実験準備。6月26日(日曜日)実験。

※GSR(皮膚電気反射)は、精神性発汗部位にとりつけた電極間に微細電流を通じ、そこに生ずる皮膚電気抵抗を測定する。うそ発見器としても利用される。皮膚電気抵抗値は個人差が大であるので、集団としての傾向をとらえるため、5名の合成抵抗の記録のできるものを新規に製作した。



写真1 電極板の着装—中学生—



写真2 実験風景—小学生—

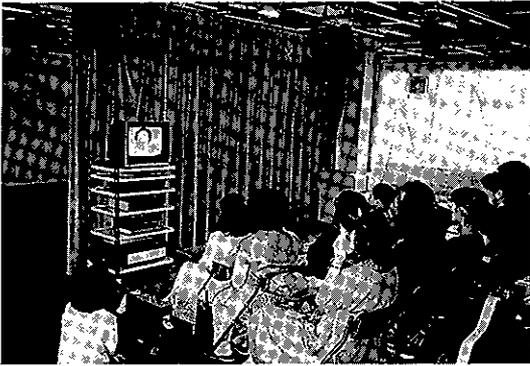


写真3 実験風景—母親—

### Ⅲ 結果

#### 1. GSRの分析

##### 1) ビデオでの観察とGSR

GSRは感情を含めた心的興奮の心理的・生理的な客観的表出とされる。つまり、興奮すると皮膚の抵抗が減少して電流が多くなる。しかし、何に興奮し、どう感動したかは刺激事象との関連をとらえなければGSRの意味を知りえない。そこで、提示刺激ビデオと被験者の反応を記録したビデオを検討することとした。そして表情や身体反応とGSRの結果を関連させて分析することを試みた。しかし、母親は4グループともに身じろぎもせず刺激ビデオを視聴しており、後半、しばしばハンカチで涙を拭く被験者が多かったが、電極をつけた右手は動かしていない。中学生も母親と同様、息をつめたように視聴しているが、母親よりは僅かに身体を動かす様子が観察され、小学生はさらに中学生より身体を動かす回数は多かった。しかし、全般に緊張した態度で視聴しており身体の動きも姿勢をかえることであり、刺激の場面や内容で緊張や弛緩という変動はみられなかった。

##### 2) 抵抗値変動の年齢層別の特徴

GSRは興奮のはげしい時は急激に抵抗が減ずる。興奮が持続するときは抵抗値が低いところで細かく変動しつづけたり、細かい変化が頻発したりする。そして、GSRの抵抗値が低いと記録される振幅の波は高くなることになる。この振幅の形をみると、全体を通して母親は振幅がなだらかであり、小学生は変動がはげしいといえる。図2にその典型的な傾向を示した。中学生はこの中間の様相である。男女差はみられなかった。

##### 3) 画像による反応場面数

記録されたGSR曲線を記録用紙の基底線(感度調整

後のペン位置(図2の実線)から2目盛上(図2の点線)に記録された所をマークしtimeを記入する。一方、刺激ビデオを画像の変化ごとに時間を記入したものを用意する。画像は、「語り手」「話を聞く子どもたち」「風景」「写真」「図で説明」「アナウンサー」「タイトルや文字」の七つに分類した。全体の反応数(振幅をマークした数)は小学生584, 中学生497, 母親364である(表1)。この画像別の反応数を示したのが表1である。これで見ると、小学生、中学生、母親それぞれの差はみられない。詳細にみると、母親は子どものアップとタイトル画像に多い。小学生・中学生は類似しており、風景、写真、アナウンサーの画像が母親に比較して多く、小・中学生は母親と比べて内容より画面の変化につられることを示している。

##### 4) 年齢別の反応合致場面数

小学生、中学生、母親について、反応の合致数の割合をみた(表2)。小学生と中学生が合致数多く20.4%、ついで中学生と母親12.5%、そして小学生と母親11.6%である。小学生・中学生・母親の合致率は5.3%であった。これで見ると、中学生は小学生とより近いが、小学生より母親に近くなっていることがわかる。全体に合致数が少ないのは、最初の抵抗の低下点で検討したからであり、持続時間で検討すれば合致度はこの数値をずっと上廻ることになる。

小学生・中学生・母親三者の合致は77場面であるが、そのいくつかをあげると次のような個所である。

- ・最初の出だし、(何が初まるかの期待)・「皆さんをみていると涙が出てきます」、
- ・風景の原爆ドーム、
- ・「やはり3~4人の子が川の中に……」、
- ・「私たちも助けて」と言うんです」、
- ・「髪の毛がどんどん抜けて、『きっとダメかもわからない』……」、
- ・「最後に息をひきとったんです」などである。

##### 2. 質問紙調査結果

1) 原爆についての質問項目のうち、①日本に原爆が落ちたことを知らないものは0%、②広島に原爆が落ちたことを今日まで知らなかったものは小学生の2名のみであった。次に③原爆の被害についての情報を何で知ったか、についてメディア別に集計してみると表3になる。小学生はテレビ89.5%、次に家庭84.2%、学校・本は60%弱である。中学生はテレビと学校が最高で94.1%、次が本82.4%、家庭が76.5%である。母親はテレビ、本が100%、学校95.0%、家庭・絵本はそれぞれ90%、マンガ45%である。マンガは中学生47.1%に次いでいる。いずれの年齢層でもテレビが最も多く、テレビの情報源としての強さを示している。

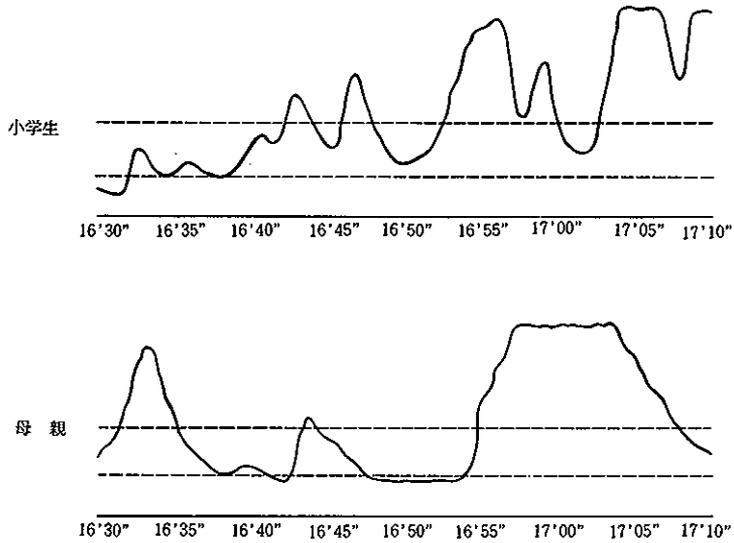


図2 GSR記録例

表1 画像による反応場面数(年齢別)

	語り手	子どもたち	風 景	写 真	図	アナウンサー	タイトル	計
小学生	356 (61.1)	131 (22.4)	28 (4.8)	26 (4.5)	18 (3.1)	16 (2.7)	9 (1.5)	584(100.0)
中学生	305 (61.5)	114 (22.9)	23 (4.6)	17 (3.4)	16 (3.2)	13 (2.6)	9 (1.8)	497(100.0)
母 親	211 (60.1)	97 (26.6)	13 (3.6)	11 (3.0)	13 (3.6)	6 (1.6)	13 (3.6)	364(100.0)

表2 反応合致場面数

	反応場面 総 数	合致場面数
小学生：中学生	1,081	220 (20.4%)
小学生：母 親	948	110 (11.6)
中学生：母 親	861	108 (12.5)
小：中：母	1,445	77 (5.3)

星他：映像メディアと児童の受容態度の分析

表3 原爆についての情報（メディア別）MA回答

	小学生19人	中学生17人	母親20人	計 56人
(1) 家庭で	16 (84.2)	13 (76.5)	18 (90.0)	47 (83.9)
(2) 学校で	11 (57.9)	16 (94.1)	19 (95.0)	46 (82.1)
(3) 本で	11 (57.9)	14 (82.4)	20(100.0)	45 (80.4)
(4) 絵本で	7 (36.8)	3 (17.6)	18 (90.0)	28 (50.0)
(5) マンガで	7 (36.8)	8 (47.1)	9 (45.0)	24 (42.9)
(6) テレビで	17 (89.5)	16 (94.1)	20(100.0)	53 (94.6)
(7) この番組を前に見たこと	5 (26.3)	2 (11.8)	3 (15.0)	10 (17.9)

表4 このビデオを誰に見せたいか

	小学生	中学生	母親	計
家族	7人	1人	1人	9人
我が子	0	0	6	6
友だち	6	4	0	10
子どもたち	0	4	10	14
母親たち	0	0	2	2
若い女性	0	0	1	1
戦争を知らない人	1	8	4	13
今戦争をしている人	1	1	0	2
原爆をおとした人	2	2	0	4
平和をわからない人	1	1	0	2
より多くの人	0	0	2	2

表5 感想

順位		計	小学5年	中学2年	母親
1	戦争・原爆のこわさ・怖さがわかった	31人	9人	14人	8人
2	命の尊さを感じた。平和を大切にしたい	28	13	8	7
3	体験談なので真に迫って感動した	20	11	7	2
4	坂本さんの悲しみがよくわかった。かわいそうである	12	8	4	0
5	多くの人にこのビデオを見せて話し合ってみたい	11	0	3	8
6	子どもたちに戦争の怖さを伝えていかなければならない	10	0	2	8
7	坂本さんの理性的な語り口に感動した	7	0	1	6
8	親の子に対する気持ちに感動した	4	0	1	3
8	写真などもっと入った方がよい	4	2	2	0
10	被害がもっとひどいと思った	3	0	3	0
11	途中、カットしない方が集中できる	1	0	1	0
11	話が繰り返しておもしろくなかった	1	1	0	0
11	なぜ、原爆が落とされたのか、わからなかった	1	1	0	0

2) 今回ビデオをみて、①「想像していたものと比べてどうだったか」を質問した。小学生・中学生はともに53%弱が思っていたよりも被害がひどいと答え(母親25%)、母親は想像通りが60%であった。②「このビデオを他の人に見せたいか」の回答についてみると、母親、小学・中学の女子は100%他の人に見せたいと答えているのに対し、男子は小学生36.4%、中学生55.6%が「見せたくない」に記入している。「誰に見せたいか」については表4のような回答を得た。小学生は友だち、家族が1・2位、中学生は戦争を知らない人と友だちが上位、母親は子どもたち、わが子が圧倒的に多くなっている。

3) GSRの電極板着装について。「初め気になる」と答えたものは各年齢とも60%内外であり、「とくに気にならない」は母親35%、小学生32%である。中学生は逆に「ずっと気になる」が35%を占める。しかし、観察しては、どの群も初め指先きに注意が向いてもその後も指先きに注意が奪われている者はいなかった。

4) ビデオ視聴後の感想文。自由記述であるが、とくにどのような感想をもったかをまとめてみると次のようになる。「戦争・原爆の恐ろしさがわかった」「命の尊さ、平和の大切さを思う」「体験談なのでとくに感動した」が上位3位である。この他、小学生は語り手その人への同情が多く、母親は他の人たちと語りあったり、子どもたちに伝えたいが多く、語り手の説得力ある語り口に感動している。中学生は母親とも近いが、小学生に似た傾向も多く、小学生と母親の間にあることが感想文を分析して明らかであった。なお、ひとりの小学生男子は映像に変化がなく繰返しで(語り手の顔が度々アップになる)、つまらなかったとのべている。合成抵抗や集計結果では、消去されているが、本人はテレビ視聴中も注意散漫であった。これは小学低学年児童を対象とした結果を予測させるものでもある。

#### IV 考察

1) ビデオ視聴(GSR測定)時、35分にわたるが、小学生・中学生・母親の各グループとも、集中しており、これは刺激ビデオの原爆被害の題材と語り手の説得力ある話の運びによるものと考えられる。

2) 母親は時折ハンカチで涙を拭くなどの動きがあったが、右手を動かすことなくGSRへの影響はみられなかった。中学生、小学生は姿勢を変えるなどの身体の動きがあり、小学生では右手の動きにやや影響することが解る。

3) GSRの皮膚抵抗の低下は母親は持続時間が長く、

小学生は振幅数の多い形になり、母親と比べて話の文脈よりも画像の転換などに反応しているといえる。これは、画像別にみた反応の分類でも明らかになった。小・中学生は風景・写真・アナウンサーの画像のとき、母親群より反応数が多くなっているのである。反応の形や場面、数など、とくに男・女差はみられなかった。

4) 小学生・中学生・母親三群の合致度をみると、小学生と中学生が類似点多く、つぎに中学生と母親となり、中学生が小学生と母親の間にあることが示された。この傾向は、ビデオ観察、GSRの曲線傾向、質問紙回答などでも同様であった。三群の合致した個所は、語りの内容が主であり、「何だろう」と期待する所、衝撃的な所であった。また、画像では「原爆ドーム」の個所であり、これは何らかの形で周知している反応と思われる。

5) 原爆についての情報をメディア別にみたが、テレビが圧倒的に多い(母100%、中学95%、小学90%)。母親と中学生が「学校で」知ったのが95%であるのに、小学生は60%弱であり、これは時代の風化というよりも学校で教えられる年齢期に達していないと考えられる。「マンガで」は、中学生47%に次いで母親45%、小学生37%であり、マンガ世代の母親たちであるといえる。

6) テレビ視聴後の感想文では、それぞれが感動をこたばにしているが、小学生は語り手の心を痛み、母親は子どもたちに伝えたい、他の人と話しあいたい、という実感が多く、子どもたちとの差がみられる。しかし、全体としては「命の大切さ」「平和の大切さ」が強くうけとめられていた。

#### 総括

今回のGSR測定では、小学高学年・中学生・母親の傾向は把握できたが、全体として緊張・興奮が持続しており、皮膚抵抗値の変化に乏しかった。したがって、男女差、年齢差も僅少であったと思われる。ただ、小学生男子のひとりが低学年的行動を示し、小学低学年・幼児を対象とすればかなりの差がみられると推測された。しかし、本刺激では低学年児童に無理なことも確かである。

今後、笑いや弛緩の変化やストーリー性のあるものを題材として研究を進展させたい。

今回の研究にあたって、照明をはじめ諸設備の調整、被験者の手配など多大な御協力いただいた玉川大学文学部助教授方勝氏に深甚な謝意を表します。また、実験や結果の整理・分析に参加いただいた段木委子氏に感謝いたします。

なお、本研究は財団法人放送文化基金の助成・援助を受けました。



Analyses of Video Media and Children's Receptive Attitudes  
—In Comparison with Adults'—

Michiko HOSHI  
Taneaki TAKAHASHI  
Reiko YUKAWA  
Shigeo OUCHI  
Akira OKADA  
Hideo NAKASA  
Tamotsu YAMAMOTO

I. Purpose

The purpose of the present study is to analyze children's receptive substance of video media and reactions to them in comparison with those of adult people from the sides of sound growth of children and of generation interchange.

II. Method

1. Procedure

- 1) Stimulus video presented - "Mama, I want water..." (44 minutes) was selected from the series of "Do you know what war is? A Message to Children" televised in August, 1987 by NHK, and was cut to 35 minute video.
- 2) The subjects were asked to watch this video and their G.S.R. (Galvanic Skin Reflex) were measured. On the other hand, the expressions and physical reactions of the subjects were video tape recorded.
- 3) Ten subjects were measured at one time on 2 G.S.R. measuring instruments, i. e. composite reactions of 5 subjects were measured on each instrument.
- 4) After the experiments, the subjects were asked to fill up the questionnaire.

2. Subjects

Nineteen fifth graders of elementary school (11 boys, 8 girls), 17 second graders of junior high school (9 boys, 8 girls) and 20 mothers (from ages of 35 to 43)

III. Results and Comments

- 1) We analyzed the acquired materials connecting up the presented video scenes with the video tape which recorded the expressions and physical reactions of the subjects. By and large, the subjects watched the video in strained attitude and no change of tension and relaxation was noticed except the body movement for the change of posture. Body movement was most frequent in elementary school pupils, next junior high school students, and then mothers in order of frequency. Such reactions as being moved to tears, responding to sorrow and etc. were observed not as the reaction to a certain scene but as the reaction to the whole substance.
- 2) The fall of skin resistance of G.S.R. was kept long in mothers, on the contrary, its amplitude was frequent in elementary school pupils. It is considered that mothers reacted to the context of the story while elementary school pupils reacted to the conversion of the picture areas.
- 3) Viewing the agreement degree among these 3 groups, elementary school pupils and junior high school students showed many points of similarity, and there were some similarities between junior high school students and mothers. This shows that junior high school students lies between elementary school pupils and mothers in similarity.

In future, we hope to develop our study taking up as a subject matter such a material that brings out laugh, change of relaxation, also that has a story.